



かわしま

mail:y3kawash@edu.city.yokohama.jp

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawashima/

学校だより 2月号
平成 22 年 1 月 29 日
横浜市立川島小学校
校長 小池 慎一
TEL 3 7 1-0 7 5 7
FAX 3 8 1-7 2 4 8

こころ あたた 心から温まいたい

学校長 小池 慎一

春の息づかいが聞こえてくるような穏やかで暖かな1月でした。来週は立春です。

そんな外の様子を眺めていましたら、もう20年以上前に、岐阜県の川島町（現在は、各務原市）というところにある、川島小学校に行ったときのことを思い出しました。

そのころの「心覚え帳」を引っ張り出してきて、ぱらぱらとめくってみたら、その時のことを書いたページが見つかりました。自分が過去に書いた文章を、改めて読んでみると、何だかとても恥ずかしい気もするのですが、ちょっと引用してみます。

『雪虫のとびかう尾張一宮駅におりたち、川島町行きバスの発車時刻までの40分間を、どんよりとした空を眺めながら過ごす。やがてきたバスの最後部の座席に深く腰をおろし、中を見回すと10人ほどの川島町に行くと思われる人たちが乗っていた。

ふと気がつくと、運転席のそばで、お客と運転手何やら話しているのが聞こえる。

「乗るときに整理券を取り忘れたのですが。」と一人の紳士。「ああ、どこから乗りなされたね。」「尾張一宮からです。」「そんなら降りるときに9番のところに出ているお金を入れて。」「川島町までどのくらいかかりますか。」「30分も行けばつくだがね。」

やがて、バスが川島小学校前につくと、反対側のバス停に立っていた老婦人に「乗っていけ」と運転席の窓から声をかけている。「どうせこの先で折り返すけ、今日は寒いから乗っていけ。」というのである。

このバスの運転手は、いかにもバスを運転し、お客をのせて走ることが楽しくてしかたないかのように見える人物であった。バスを走らせて、ある場所から別の場所に「人間」というものを運ぶこととは根本的に違うものがある。彼にとっては、バスの運転はもちろん生活の糧ではあるけれど、それ以上に生きがいであり、幸せを感じるものなのではないだろうか。……

数値で測れる気温は低くても、見ているだけで温かい気持ちになれるのは、なぜだろう。』

20数年ぶりに読み返してみて、岐阜県の川島小学校で感じた気持ちを、同じ名前である横浜の川島小学校でも実現したいという思いにかられました。

私たちの春を待つ気持ちというのは、外のぽかぽかした暖かさはもちろんですが、本当は心のほかほかした温かさを求めているのかなと、立春を前に考えました。